

# 地域福祉の推進を住民とともに

## ～民生委員制度創設100周年～

民生委員制度は、大正6年岡山県で創設された済世顧問制度に始まって、今年の5月に100周年を迎えます。埼玉県でも大正8年に福利委員制度を創設した古い歴史があります。そこで今回は、埼玉県民生委員・児童委員協議会の大会長にお話を伺いました。

埼玉県民生委員・児童委員協議会 会長  
おお 谷 富夫 さん

埼玉県社会福祉協議会副会長、川口市民生委員・児童委員協議会会長、川口市社会福祉協議会副会長



民生委員活動をタブレット映像で紹介していただきました。



を守っていただくことは、共生社会の形成の一端を担っていくことになると思います。つまり、時代の変化にも、長く培ってきた民生委員活動を守っていくことで対応できる

民生委員はさまざまな関係機関や社会福祉協議会（社協）と連携していく必要がありますね。何か期待することはありますか。

関係機関は皆さん一生懸命取り組んでくださいます。民生委員は、地域のさまざまな関係者や団体等と連携しながら活動をしていきます。特に市区町村社協に参画し連

民生委員制度は今年100周年ですね。また大会長は、今期から新たに会長に就任されました。この辺りからお話を伺えるでしょうか。

今年の1月20日から埼玉県民生委員・児童委員協議会の会長職を仰せつかりました。身の引き締まる思いです。皆さまと力を合わせて役割を果たしていきたいと思

制度発足100周年とは1世紀です。高年齢の方が多いからといって若い人に話などしていただくことはありません。それに、私はもともと東京都の西新井大師の近くで生まれ、生粋の川口市民ではなかったもので、なお更だっ

また、地域の中にはキーマンになる方がいます。そうした方々に理解していただくことが大切だと分かってきました。地域の歴史を知ることも大事でした。担当地区は古い歴史を持つ地域で、この土地の文化に興味があることを話すとう理解して認めてくれました。あきらめないこと、自分から手だてを講じないとうま

1期の3年が過ぎた頃からやっと活動がしやすくなりました。こうして学んだ経験から、新任の民生委員さんには「ご自身が担当する高齢の方の輝いていた時」を早く見つけて共感できるという「ですね」と話しています。誰もが輝いていた時の思い出があるもので、話題のきっかけがつかめます。それに民生委員それぞれが経験すると思いますが、どうしても前任者と比較されることがあります。前任者がとだけ活動してき

ことは想像の範囲ですが、当時は事件を起こした人や収監された人などのカバールもしていたと思

一方で、子どもについては戦災孤児といった問題はあったと思いますが、地域の中では活発な子どもも多く、今ほど子どもの問題に対応することはなかったように思われます。もつとも地域の住民みんな子育てをしていた時代でしたから。

また高齢者の問題もそうです。今ほど医療も発達しておらず長生きができない時代だったわけですし、暮らしては肉体労働が中心で、みんな寿命が尽きるギリギリまで体を動かして働いていました。で、たかということもありますが、2期、3期と務められた方の後を引き継ぐわけですから、最初から同じようには出来ませんよ。引き継いだことは、もう自分なりに噛み砕いて理解するしかない。そのためには民生委員同士の情報交換が必要で、複数で地区を担当する民生委員さんは先輩に教えてもらい、一人で地区を担当する民生委員さんは隣接地区の方たちと連携することが大事です。

今「ニッポン一億総活躍プラン」の中で、厚生労働省は「地域共生社会の実現」に向けた方針を示しています。これからの民生委員活動に求められる役割についてはいかがでしょう。

働き方が変化してきたこともあって、今の生活課題や困窮の問題があると思います。海外に行く人はいま以上に座って缶を置いて物乞いをする人はいます。日本人はそんなことにはあまりしません。文化の違いもありますし、自ら助けてほしいと手を挙げにくい社会の情勢もあると思います。で、貧困の問題は潜在化しやすいと思います。そこをどうするかということですね。国から具体策がポンとでることはありませんか

携することで住民の福祉活動への参加とともに進め、地域福祉の中心的な役割を担っていると思

最後に、民生委員の皆さんにメッセージをお願いします。

（※ すべての民生委員は、市区町村の一定区域ごとに設置される「民生委員児童委員協議会」（略称「民児協」）に所属し活動をしている。一定区域ごと（原則として町村は全域で一つの区域）に民児協を設置することは民生委員法に規定されていることから「法定単位民児協」と呼ばれる。

すから昔の民生委員は、生活困窮の問題に対応することが活動の中心だったと思います。

この100周年間は民生委員制度が始まった当初の時代、戦後の時代、今の時代と、大きく3つほどに分けられるのではないかと私は思います。

会長ご自身の民生委員活動を振り返ってお話を伺えますか。

民生委員をお受けした時は40歳でした。最初に母に相談すると、民生委員の経験があった母には、まだ早いよと言われました。何度も薦めていただき断り切れずお受けして、活動を始めてみると母の

各地域の中で民生委員は、地域の実情にあわせて色々取り組まれていることがあります。例えば、介護予防が始まったのは10年前ですが、制度が出来てもなかなか介護予防の取組が進まないところがあつたので、自分の担当地区では民生委員が主体になって介護予防教室を始めました。介護予防教室に民生委員がいると、参加される方のちよつとした相談に乗ることが出来ます。民生委員自身もボランティアとしてやってみて、楽しい、役に立って嬉しいという経験を重ねていきます。最近では大学生や高校生を巻き込むようになり、学生が高齢者のことを考えてアイデアを持って来てくれるようになりました。そのことに応えようとして活動を広げると、更に新たな人たちとの関係が出来ます。意のまま展開に進んでいくこともありますが、関わりを持ってくれる人たちが楽しい、役立って嬉しいと思えることが大事です。仮に計算外だったとしても、やりがいを感じて続けていくことで民生委員の視野や活動も広がりますし、皆さんが共生社会を体感していくことができると思

具販売・販売用・販売用  
シルバーホクソク  
HOXON  
0120-65-4649

福祉用具貸与・販売 / 住宅改修  
訪問介護サービス  
福祉のニツカ  
0120-002940